

## 平和な世界を築くためにわたしたちができること

～ モザンビークから世界をみつめよう ～

平成 19 年度 6 年学年タイム 全体構想 (55 時間)

時期	過程	子どもたちの意識と学習の流れ	時数	育てたい力
4 月	出会い	<ul style="list-style-type: none"> <li>■原爆って何?</li> <li>●読み物資料『鶴が飛ぶ日』『飛べ!千羽鶴』</li> <li>広島・長崎原爆に関する読み物</li> <li>●ビデオ『はだしのゲン』</li> </ul>	10	C 二度と繰り返さないという気持ちを言葉や歌に込めて取り組む。
5 月	見つける	<ul style="list-style-type: none"> <li>■原爆の子の像の前で、私たちの平和への願いを伝えよう</li> <li>●平和祈念セレモニー</li> </ul>		
6・7 月	究める①	<ul style="list-style-type: none"> <li>■モザンビークの現状を知り、私たちにできることを考えよう</li> </ul>	10	D 世界の現状を知り、自分たちとの関係を考え、できそうなことに取り組む。
9・10 月	究める②	<ul style="list-style-type: none"> <li>■モザンビークとの交流を深め、共生について考えよう</li> <li>●テレビ会議</li> <li>●モザンビークとの交流会</li> <li>●アフリカキャラバン</li> <li>●中間発表会</li> </ul>	10	<p>C 積極的に交流し、知りたいことを聞いたり、伝えたいことを分かりやすく表現したりする。</p> <p>B モザンビークや開発途上国の現状から、平和な世の中について関心を持って調べたり、考えたりする。</p>
11・12 月	究める③	<ul style="list-style-type: none"> <li>■モザンビークのためにできることを考え、実行しよう</li> <li>●募金活動</li> <li>●物資支援活動</li> </ul>	10	A 世界の平和に貢献するために、自分たちができていることを考え実行するとともに、身近なところから改善しようとする。
1・2 月	広げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平和や国際交流について考えよう</li> <li>●交流会の準備・話し合い</li> </ul>	10	<p>D 先進国と開発途上国の両方に目を向け、異文化を理解しようとする。</p> <p>D 国際交流のあり方やこれからの自分たちの生き方について考える。</p>
3 月	伝える・まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学習してきたことを伝えよう</li> <li>●交流会・6年生を送る会</li> <li>●募金活動・物資提供活動</li> </ul>	5	<p>C 伝えたいことを相手に分かりやすく表現する。</p> <p>B 続けて取り組めることを見つけて、できることを実践しようとする。</p> <p>A 周りや相手のことを考えながら、よりよく生活しようと思掛ける。</p>

A 向上心 B 自ら学ぶ力 C コミュニケーション力 D 思考力

## 事例情報

### 松阪もめん

協力(事例実践者\*):三重県伊勢市立五十鈴中学校 西村朱美教諭\*

担当:長岡弘志

参考文献:西村朱美『『松阪もめん』を中心に多角的視野を付加した中学校家庭科における金融教育』2005年、西村朱美『中学校家庭科におけるサステナブル社会のための消費者教育』『日本消費者教育学会中部支部中部消費者教育論集』第4号、2008年

主な協働先:カンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC) <http://www.cmc-net.jp/>

特定非営利活動法人 ACE <http://www.acejapan.org/>

株式会社ムーンスター <http://www.moonstar.co.jp/>

もめんや藍(地元店舗) <http://www.akafuku.com/momenya/>

学習時資料:山本良一責任編集、Think the Earth Project 編『世界を変えるお金の使い方』ダイヤモンド社 2004年、ジェローム・ミニエ『おかいものちょっと考えてみて フェア・トレードの絵本』グローバル・ヴィレッジ/フェアトレードカンパニー 2001年

### ピクトサイン

協力(事例実践者\*):東京都江東区立東雲小学校 手島利夫校長、中島明博教諭\*(当時)、梅沢隆史教諭\*、現3学年担任 大沢博美教諭、浦野めぐ美教諭

担当:成田喜一郎、丸山英樹、長岡弘志

参考文献:東雲小学校『平成17年度東雲小学校研究報告書』2006年、多田孝志、手島利夫、石田好広『未来をつくる教育 ESD のすすめ -持続可能な未来を構築するために-』日本標準(日本標準ブックレット No.9) 2008年

主な協働先:パナソニックセンター <http://panasonic.co.jp/center/>

東京ビッグサイト <http://www.tokyo-bigsight.co.jp/>

### 奈良の世界遺産

協力(事例実践者\*):奈良県奈良市立済美小学校 大西浩明教諭\*

担当:長岡弘志

参考文献:奈良市教育委員会『奈良大好き世界遺産学習』2008年

主な協働先:

なら・観光ボランティアガイドの会

奈良国立博物館 <http://www.narahaku.go.jp/>

奈良県奈良公園管理事務所

学習時資料:奈良市教育委員会『奈良大好き世界遺産学習』2008年

### 学校図書館

協力(事例実践者\*):山形県鶴岡市立朝陽第一小学校 難波信昭校長\*、宮島昭子司書教諭\*、五十嵐絹子元学校司書\*

担当:成田喜一郎

参考文献:鶴岡市立朝陽第一小学校 編著『こうすれば子どもが育つ 学校が変わる-学校図書館活用教育ハンドブック』国土社 2003年、五十嵐絹子『夢を追い続けた学校司書の四十年-図書館活用教育の可能性にこだむ』国土社 2006年、鶴岡市立朝陽第一小学校 編著『みつける つかむ つたえあう 学校図書館を活用した授業の創造-学校図書館活用ハンドブックⅡ』国土社 2006年

主な協働先:読書支援サークル「本のたからばこ」

## 源 朝長

協力(事例実践者\*)：静岡県袋井市立三川小学校 小林節子校長、高橋由美教諭\*

担当：成田喜一郎、長岡弘志

参考文献：三川小学校『平成19年度ふるさと三川16集』2008年

主な協働先：

積雲院住職

岐阜県大垣市立青墓小学校

郷土史家 清水忠雄、堤正樹

学習時資料：清水忠雄『三川風土記 ふるさと三川の記録』清水忠雄1993年、『三川の史話・伝説』三川歴史研究会1997年、ふるさと青墓編集委員会『ふる里青墓』大垣市立青墓小学校2004年

## ペットボトルキャップ

協力(事例実践者\*)：東京学芸大学附属国際中等教育学校 本田千春教諭\*

担当：西村圭一、丸山英樹

参考文献：東京学芸大学附属国際中等教育学校数学教育研究会『TGUISS 数学I・II』正進社2007年、東京学芸大学附属国際中等教育学校ホームページ

主な協働先：

NPO法人エコキャップ推進協会 <http://ecocap007.com/>

NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV) <http://www.jcv-jp.org/>

## 回転寿司

協力(事例実践者\*)：東京都葛飾区立本田中学校 本山明教諭\*

担当：中村絵乃、丸山英樹

参考文献：本山明「回転寿司の授業」『食農教育』2007年4月増刊号、農山漁村文化協会2007年

主な協働先：

卸売業亀和商店、築地市場マグロ専門店、WWFジャパン <http://www.wwf.or.jp/>

学習時資料：NHK地球データマップ「魚が消えていく」(ビデオ)、本山明「回転寿司クイズ」[コメントシート]「新聞記事資料」など

## ecoピカセット

協力(事例実践者\*)：岡山県岡山市立津島小学校 三宅貴久子教諭\*

担当：長岡弘志

参考文献：岡山市立津島小学校『平成19年度研究のあゆみ』2008年

主な協働先：岡山市京山地区ESD推進協議会、青年海外協力隊員(在ケニア、コスタリカ、ニジェール)、関西大学学生(在シリア)

学習時資料：岡山市立津島小学校「地球を救うエコライフ」(DVD)、NHK「どーする?地球のあした」(ビデオ)、武田邦彦『偽善エコロジー「環境生活」が地球を破壊する』幻冬舎(幻冬舎新書)2008年

## 面瀬川

協力(事例実践者\*)：宮城県気仙沼市立面瀬小学校 小野寺純一校長、佐藤克彦教諭、白倉隆博教諭\*

取材担当：丸山英樹

参考文献：気仙沼市教育委員会他『メビウス～持続可能な循環～』2009年、気仙沼市教

育委員会『気仙沼市環境教育・ESDカリキュラムガイド<第1版>「持続可能な社会の実現を目指して」』2008年

主な協働先：仙台市科学館 <http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/>、宮城教育大学附属環境教育実践研究センター、面瀬川愛護会

## はらぺこ体験

協力(事例実践者\*)：新潟県上越市立大手町小学校 村山信一校長、栗岡秀明教頭、田邊道行教諭\*

担当：成田喜一郎、長岡弘志

参考文献：大手町小学校『人間力～「食糧その日」に見られる子どもの姿から～』2007年、島田治子『食糧がたいへんだ!上越市大手町小学校の空腹体験』一藝社2005年

主な協働先：北陸研究センター、青年海外協隊OB、生活アドバイザー、フードアドバイザー、管理栄養士、上越青果、グリーンファーム清里、地元農家、地元スーパー、地元飲食店、JCV上越ケーブルビジョン

学習時資料：日本国際飢餓対策機構「世界の飢餓の現状と私たち」(DVD)2003年

## 防災マップ

協力(事例実践者\*)：宮城教育大学附属小学校 荒明聖教諭\*、遠藤俊哉教諭\*

担当：丸山英樹

参考文献：遠藤俊哉「みんなの力で立ち向かえ～九十九%!本日にやってくる宮城県沖地震～防災教育の実践と課題」『いずみ』宮城教育大学附属小学校2009年

主な協働先：仙台市消防署、仙台市、東北大学

## アンケート調査

協力(事例実践者\*)：奈良教育大学附属中学校 竹村景生教諭、西仲則博教諭\*、吉岡陸美教諭

担当：西村圭一、丸山英樹

参考文献：奈良教育大学附属中学校「ESDの理念にもとづく学校づくり～ESDの理念を学ぶ教科学習と学校行事～(3年次)」奈良教育大学附属中学校研究収録第37集2008年

## モザンビーク

協力(事例実践者\*)：愛媛県松山市立新玉小学校 松浦典子校長、井上健一教諭\*、清家真理子教諭\*、藤原一弘教諭\*、森 美保教諭\*

担当：竹内よし子(ESD-J理事)、長岡弘志

主な協働先：新玉公民館、えひめグローバルネットワーク <http://www.egn.or.jp/>、

駐日モザンビーク共和国大使館 <http://www.embamoc.jp/>

学習時資料：

ハンガーバンケット(Oxfam America) <http://www.hungerbanquet.org/>

UNICEF "A Life Like Mine:How Children Live Around the World" Dorling Kindersley Publishers Ltd. 2003

以上13の教材活用事例は、現行学習指導要領のもと「総合的な学習の時間」や各教科・領域で実践されたものですが、授業時数など適切に調整することで、新しい学習指導要領のもとでも実践することが可能です。なお、参考までに、中学校の実践「松阪もめん」「回転寿司」については、新しい学習指導要領・解説との関連について次ページにふれてあります。

**松阪もめん**

学習指導要領・解説との関連：

技術・家庭科 家庭分野

- C 衣生活・住生活と自立 (3)
- D 身近な消費生活と環境 (1) (2)

「身近な消費生活と環境」では、社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方や環境等に配慮した生活の仕方に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、持続可能な社会における生活の営みへの足掛かりとなる能力と態度を育てることをねらいとしている。また、これからの生活を展望し生活をよりよく営むためには、自らの生活の課題を見付け、解決のための実践を行うことによって、学習した知識と技術を生活に生かす学習活動に留意する必要がある。(解説)

技術・家庭科 技術分野

- A 材料と加工に関する技術 (3)

**回転寿司**

学習指導要領・解説との関連：

社会科 地理的分野

- (2) 日本の様々な地域
  - イ 世界と比べた日本の地域的特色
- (ウ) 資源・エネルギーと産業
  - ウ 日本の諸地域

- (エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察

地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

「地域の環境問題や環境保全の取組を中核として」とは、地域の環境問題や環境保全の取組に関する特色ある地理的事象に着目し、それを中核として地域的特色をとらえさせることを意味している。「それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け」については、地域の産業の動向、地域開発の動向、人口の過密化、都市化といった地域の変容や人々の生活様式の変化などを取り上げ、これらと関連付けて地域的特色を追究することが考えられる。「持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える」については、地域の地理的事象の形成や特色を理解するためには、持続可能な地域社会の構築のためには地域の環境負荷を最小限にとどめ、環境保全の取組が大切になることなどを踏まえて考察することが必要であることを意味している。(解説)

社会科 公民的分野

- (1) 私たちと現代社会
  - ア 私たちが生きる現代社会と文化
- (2) 私たちと経済
  - ア 市場の働きと経済
- (4) 私たちと国際社会の諸課題
  - ア 世界平和と人類の福祉の増大
  - イ よりよい社会を目指して

持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。

「イ よりよい社会を目指して」では、持続可能な社会を形成するという観点から課題を設定し、探究させ、自分の考えをまとめさせることを主なねらいとしている。なお、この中項目は、社会科のまとめとして位置付けられているため、社会科の学習全体を通して習得した知識・技能を活用して、自分の意見をまとめさせることが大切である。また、その際、適切かつ十分な授業時数を配当することが必要である。(解説)

## 第Ⅱ部



## ESDへのアプローチ